

令和5年度 内部質保証による 自己点検・評価報告書



群馬大学
GUNMA UNIVERSITY

令和5年度 内部質保証による自己点検・評価の 実施概要

自己点検・評価の「目的」

大学が自律的な組織として、理念や目的を実現するために、自らが行う教育及び研究並びにそれらを行うための組織、運営、施設及び設備の状況について継続的に点検・評価し、絶えず改善・向上に取り組むことを目的とする。

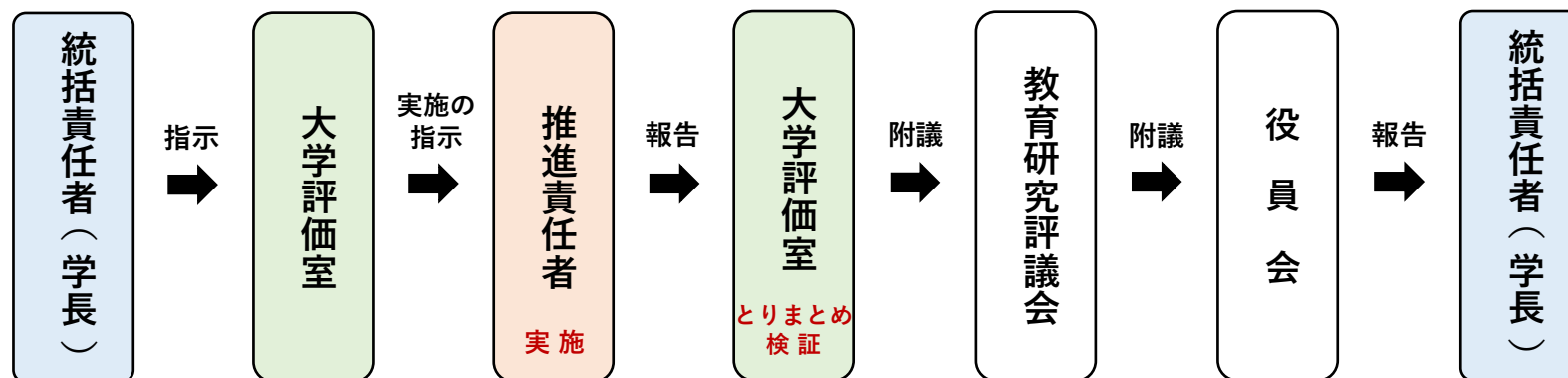
自己点検・評価の「実施対象・方法」

「群馬大学における内部質保証に関する方針」、「群馬大学における教育の内部質保証に関する方針」、及び各推進責任者等が定める「自己点検・評価及び改善実施要項」に基づき、以下の対象分野について責任主体組織及び推進責任者が定める組織において、自己点検・評価を実施する。

区分	対象分野	推進責任者	責任主体組織
教育活動	教育課程	理事（教育・評価担当）	責任主体組織（評価） 大学教育・学生支援機構 教育アセスメント委員会 責任主体組織（改善） 大学教育・学生支援機構 大学教育センター 学部教務委員会、大学院教務委員会
	学生支援	理事（教育・評価担当）	大学教育・学生支援機構 学生支援センター運営委員会
	留学生支援	理事（教育・評価担当）	大学教育・学生支援機構 グローバルイニシアチブセンター運営会議
	学生受入	理事（教育・評価担当）	大学教育・学生支援機構 アドミッションセンター運営会議
研究活動	研究活動	理事（研究・企画担当）	研究・産学連携推進機構会議
施設設備	施設	理事（総務・財務担当）	施設・環境推進室
	情報設備・図書館	総合情報メディアセンター長	総合情報メディアセンター運営委員会

自己点検・評価の「実施体制」

- ① 統括責任者（学長）・大学評価室の指示のもと、内部質保証の対象分野ごとに推進責任者が、責任主体組織において実施する。
- ② 推進責任者は、結果を大学評価室に報告し、大学評価室においてとりまとめ・検証を行う。
- ③ 大学評価室は、結果を教育研究評議会・役員会に附議し、統括責任者（学長）へ報告を行う。統括責任者は、必要に応じて意見を付し、推進責任者へ改善計画の策定・実施を指示する。



令和5年度の実施状況

各推進責任者等が定める「自己点検・評価及び改善実施要項」に基づき、自己点検・評価が実施されていること及び自己点検・評価の結果、優れた点及び改善すべき点があることを確認した。

※具体的な結果については、次頁以降、対象分野ごとに記載する。

【教育活動】教育課程

■ 実施対象

11の教育課程（学士課程：教養教育・3学部・2学科）（大学院課程：5研究科）


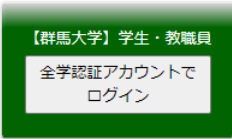
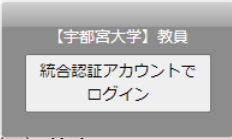
■ 点検・評価事項

各教育課程における教育内容、方法等

■ 自己点検・評価の結果（総括）


自己点検・評価の結果、適切に実施していることを確認した。

■ 優れた点

学部等	概要	
全教育課程 【継続】	<p>【群馬大学LMSの整備・活用】 群馬大学LMSにおいて、授業科目ごとのコースが設定され、教材の公開、テスト・アンケートの実施、課題の確認などで利用されている。教員、学生ともに、いつでもどこからでもアクセスすることができ、学生の自発的な学習や教員と学生とのコミュニケーションを促すための多様な機能により、対面授業を補完するツールとして役立てられている。</p>	 <p>(図) 群馬大学LMS</p>
共同教育学部 【新規】	<p>【宇都宮大学と合同のカリキュラム点検・評価委員会の設置】 共同教育学部としての教育課程の継続的な改善のため、群馬・宇都宮両大学でのカリキュラム・教務関連の改善案をとりまとめるとともに、着実に質保証を実施するための組織として、「宇都宮大学・群馬大学共同教育学部カリキュラム点検・評価委員会」を設置した。</p> <p>【宇都宮大学からの教育関係システムの乗り入れ】 教務システム及び共同教育学部LMSについて、国立情報学研究所の運営する「学認フェデレーション」に参加し、齊一科目における宇都宮大学学生の成績登録作業をよりスムーズに行えるようにするとともに、セキュリティを向上させるシステム改修を実施した。</p>	 <p>【群馬大学】学生・教職員 全学認証アカウントで ログイン</p>  <p>【宇都宮大学】教員 統合認証アカウントで ログイン</p> <p>(図) 教務システム ログイン画面</p>

【教育活動】教育課程

■ 優れた点

学部等	概要	
教育学研究科 【新規】	<p>【現職教員の実習の一部免除】 現職教員の派遣をより円滑に行う観点での群馬県教育委員会からの要望を専門職学位課程運営委員会で検討の結果、法令上可能だがこれまで本学で実施してこなかった「実習の一部免除」について、現職教員の2年次について導入することを決定した。</p>	
理工学部 【継続】	<p>【メンター制の導入によるマンツーマンの学生指導】 令和3年度入学生より1年次からメンター教員（相談・世話役）がマンツーマンで指導。学生一人ひとりにメンター教員が付き、プログラム選択や履修、進路に関する様々な相談を行っている。</p>	

(図) 理工学部3つの特徴

■ 機関別認証評価への対応

令和4年度においては、機関別認証評価の受審課程において受けた指摘を踏まえて、全学的に以下の対応を行った。

- (1) 教育ポリシー（カリキュラムポリシー）の改訂
- (2) シラバスの検証・改善（全学のチェック体制の強化）
- (3) 「研究指導計画」の明確化（関連規定・様式の改正）

【教育活動】 学生支援

■ 実施対象

学生支援全般

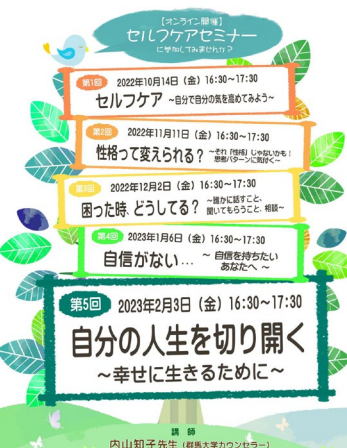
■ 点検・評価事項

- ・ 学生生活に関する支援の状況
- ・ 学生の健康に関する支援の状況
- ・ 就職等進路に関する支援の状況
- ・ 学生の課外活動に関する支援の状況
- ・ 学生の経済面に関する支援の状況
- ・ 各種ハラスメント防止に関する措置の状況
- ・ 障害のある学生に関する支援の状況

■ 自己点検・評価の結果（総括）

自己点検・評価の結果、適切に実施していることを確認した。

■ 優れた点

	概 要	
<p>【物価高に対する経済支援】</p> <p>【新型コロナウイルス感染症等への支援】</p>	<p>【奨学金給付等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 経済的困窮学生に対する修学支援金給付（大学院生対象、大学独自） 20万円を12名に給付 ■ 学生の食に対する支援（大学独自及び日本学生支援機構助成金） 全国で使用できる食事券（ジェフグルメカード一人@5千円分）を505名に配付 ■ 物価高に対する経済支援（大学独自及び日本学生支援機構助成金） 大学生協食堂及び購買書籍店で使用できる生協電子マネー（一人@5千円分） 337名にチャージ（入金）して給付 ■ 入学金免除及び授業料免除等（文部科学省支援、大学独自） <p>【その他の支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 全学生を対象としたセルフケアセミナー（全5回）の実施 ■ 心理カウンセリングを、学生の希望に応じて対面又はオンラインで実施 ■ ライブ配信や収録動画配信により就職ガイダンスを実施 ■ 就職相談（キャリアカウンセリング）を、学生の希望に応じて対面又はオンラインで実施 ■ 障害学生に対する情報保障サポート 	 <p>【オンライン開催】 セルフケアセミナー ～自分で自分の成長を促してみよう～</p> <p>第1回 2022年10月14日（金）16:30～17:30 セルフケア ～自分で自分の成長を促してみよう～</p> <p>第2回 2022年11月11日（金）16:30～17:30 性格って変えられる？ ～ざり、理想、自分だけが！ 講師/中野先生に学ぶ～</p> <p>第3回 2022年12月2日（金）16:30～17:30 困った時、どうしてる？ ～誰かに話すこと、 聞いてもらうこと、相談～</p> <p>第4回 2023年1月4日（金）16:30～17:30 自信がない！... ～ 自信を持てたい あなたへ～</p> <p>第5回 2023年2月3日（金）16:30～17:30 自分の人生を切り開く ～幸せに生きるために～</p> <p>講師 内山知子先生（群馬大学カウンセラー）</p> <p>（図）セルフケアセミナー</p>

【教育活動】留学生支援

■ 実施対象

留学生支援全般


■ 点検・評価事項

留学生の生活に関する支援の状況

■ 自己点検・評価の結果（総括）

自己点検・評価の結果、適切に実施していることを確認した。

■ 優れた点

	概 要	
<p>【ワンストップ型の留学生相談体制の確立】</p>	<p>留学生相談室をオンライン化し、各キャンパスに個別の部屋を準備することで、カウンセラーが三キャンパスの学生の相談に応じられる体制を作った。</p> <p>対面での対応が必要な場合は三キャンパスにいるグローバルイニシアチブセンター教員が対応することで、ワンストップ型の相談室の確立が可能となった。</p>	 <p>(図) 留学生相談室（荒牧）</p>

【教育活動】 学生受入

■ 実施対象

学生受入全般

■ 点検・評価事項


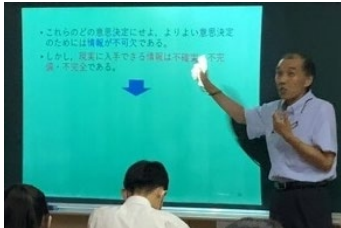
- ・ 学生受入方針が明確に定められていること
- ・ 学生受入方針に沿った学生受入の実施状況
- ・ 実入学者数の状況

■ 自己点検・評価の結果（総括）

自己点検・評価の結果、概ね適切に実施していることを確認した。

入学定員の充足率については、一部の研究科において「改善すべき点」があった（昨年度から継続）。

■ 優れた点

	概 要	
【高大連携事業の強化】	<p>高大連携事業の一環として、近隣高校の「総合的な探究の時間」の授業に本学教職員及び学生が参加し、高校生へ指導助言等を行う取組みを本格的にスタートさせた。本学が持つ知見や研究力を高校に提供することで、地域教育に貢献するとともに、中長期的に本学が求める人材の発掘や育成につなげていく。</p>	
	<p>大学の人的リソースの利活用の観点から、学生受入に向けた高大連携事業の一環として、OB・OG教員を模擬授業などのラインナップに取り入れて活躍の場を提供するとともに、現役教員の負担軽減を図る取組みを本格的に始動させた。</p>	

(図) 総合的な探究の時間（本学教員による支援）

(図) OB・OG教員による模擬授業

【教育活動】 学生受入

■ 改善すべき点

以下の研究科においては、入学定員を大幅に下回る、又は大幅に超える状況となった（※）。
入学定員充足率の状況を継続的に把握し、改善方策に基づき改善のための取組を進めていく必要がある。

※「1.3倍以上」、又は「0.7倍未満」の場合は、「大幅に超える」、又は「大幅に下回る」としている。

研究科名	専攻名（課程区分）	充足率（入学定員）	判定
教育学研究科	教育実践高度化専攻（専門職学位課程）	1.3 倍（20名）	超過（大幅に超える）
社会情報学研究科	社会情報学専攻（修士課程）	0.36 倍（14名）	未充足（大幅に下回る）
医学系研究科	生命医科学専攻（修士課程）	0.53 倍（15名）	未充足（大幅に下回る）
保健学研究科	保健学専攻（博士後期課程）	1.3 倍（10名）	超過（大幅に超える）
理工学府	理工学専攻（博士後期課程）	0.28 倍（39名）	未充足（大幅に下回る）

■ 複数年にわたる改善計画の進捗状況

以下の研究科においては、昨年度（令和4年度）の自己点検・評価において、入学定員を大幅に下回る状況（0.7倍未満）となっていたが、昨年度中に策定した改善計画の実施を受けて、医学系研究科医科学専攻（博士課程）においては、0.78倍に改善した。

研究科名	専攻名（課程区分）	充足率（R4）	充足率（R5）	
医学系研究科	生命医科学専攻（修士課程）	0.60 倍	0.53 倍	継続
	医科学専攻（博士課程）	0.65 倍	0.78 倍	改善
理工学府	理工学専攻（博士後期課程）	0.28 倍	0.28 倍	継続

【研究活動】

■ 実施対象

研究活動全般

■ 点検・評価事項

- ・ 研究活動の支援体制の整備の状況
- ・ 研究倫理教育の実施状況

■ 自己点検・評価の結果（総括）

自己点検・評価の結果、適切に実施していることを確認した。

【施設設備】施設、情報設備・図書館

■ 実施対象

- ・教育研究、自主的学習や課外活動等のための施設
- ・情報設備、図書館運営全般


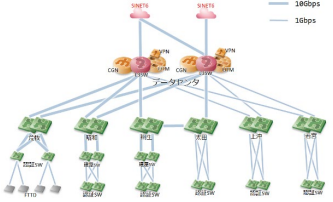
■ 点検・評価事項

- ・施設の整備状況
- ・施設の安全性の状況
- ・自主的学習環境整備の状況
- ・情報設備に関する項目
- ・図書館運営に関する項目

■ 自己点検・評価の結果（総括）

自己点検・評価の結果、適切に実施していることを確認した。

■ 優れた点

	概 要	
【図書館運営】	<p>■ 中央図書館が所蔵する郷土かるたの札画像が閲覧できる全国でも稀なサイトとして郷土かるたコレクションデジタルアーカイブを令和3年3月に開設した。開設当初は、群馬県内60点のかるたから公開を開始したが、その後全国から掲載依頼や寄贈が相次ぎ、令和5年3月時点で176点と増加している。本サイトへのアクセスも年毎に倍増しており、郷土かるたコレクションの知名度向上とともに地域振興や教育機関における利用、博物館への貸出など、図書館所蔵資料としての利活用促進に繋がっている。</p> <p>■ オープンサイエンス推進のため、令和4年4月に「オープンアクセスポリシー」を策定するとともに、教員業績管理システムを改修し、学术论文を本学リポジトリへ一括登録する仕組みを構築した。また、オープンサイエンス理念の学内周知を図るため、オープンアクセスポリシー及びリポジトリ登録方法についてオンラインの教員説明会を実施した。</p>	 <p>(図) 「郷土かるたコレクション」デジタルアーカイブ</p>
【情報設備】	<p>■ 学術情報ネットワーク「GUNet2022」への移行を進め、研究室、部署からなる小規模サブネット（マイクロセグメンテーション）への接続変更を行った。このことにより、ランサムウェア等による攻撃でも利用されている「標的型攻撃（APT攻撃）」への対策を行った。また、ネットワーク接続機器を研究室、部署単位のグループで管理し、その管理者を明確にすることで、管理者不在の機器がなくなるよう管理体制を整備した。</p>	 <p>(図) 「GUNet2022」概要</p>